

令和4年度

学島小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① ICT 活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開の工夫
- ② ノートや端末等を活用して、自主的に取り組もうとする「家庭学習」の習慣化

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 田崎 麻未	校長 後藤田 育秀
	教務 重本 英昭
	教頭 豊島 由美子
	研修主任 森永 直美
	低・中・高学年代表教諭

校長

後藤田 育秀

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付き、与えられた課題に対してまじめに取り組むことのできる児童が多い。 ●学力の二極化が見られ、読書や日常生活の経験差から、一部の児童には語彙力や読解力に課題がある。	・言語感覚を豊かにし、言葉の特徴や使い方等の国語の知識を身に付け、日常生活で使うことができる。 ・読書に親しむとともに、ICT 活用を通して自分の考えを深めたり、知識を相互に関連付けてより広く理解したりすることができる。	・国語や道徳の授業をはじめ、話す活動や書く活動の中で「言葉の宝箱」等を使い、振り返りをする。 ・端末の録画機能等を活用して話す練習をし、良さを伝え合うことで言語活動を充実させる。 ・「学び一タイム」等の朝の活動を活用し、個別指導の充実を図る。	・市立図書館との協力連携により、様々な図書にであう機会を充実し、じっくり読書する時間を確保する。	・「言葉の宝箱」をはじめ、言葉カードを活用することで、表現豊かに話したり書いたりできる児童が増えた。 ・様々な学習活動で端末を効果的に活用することができた。 ・読書の時間には集中して読むことができたが、個人で図書室へ行ったり家庭で読書をする習慣は十分付いていない。	・「学び一タイム」の在り方を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の向上を図る。 ・授業の中で、ホワイトボードや端末を効果的に使う技能を身に付けさせる。 ・図書館との協力連携を継続し、家庭読書の啓発を進める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○積極的に自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかり聞いたりすることができる児童が多い。 ●学習の見通しを持つことや、根拠や理由を明確にして自分の思いや考えを表現することに課題がある。	・自分の思いや考えを相手にわかりやすく表現したり、相手の意図を捉えながら聞いたりし、主体的に対話することができる。 ・課題解決に向けて、互いの考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にしながらか自分の意見を表現することができる。	・話し方・聞き方や話型等を活用し、ペア・グループでの意見交換等の学習場面を多く設定することにより、協働的に学び合う活動を増やす。 ・ホワイトボードや端末、思考ツール等を効果的に活用し、互いの考えをまとめたり表現したりする機会を増やす。	・小集団での話し合いの仕方や進め方の具体例を示し、互いに意見交換できる機会を多く設ける。 ・自分の意見の根拠などをノートにまとめた上で、互いの考えを伝え合えるようにする。	・根拠や理由を基に、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童が増えてきている。 ・自分の考えが上手に伝わるように工夫して表現することについては、まだ十分ではない。 ・相手の意図を捉えながら聞くことが難しい児童もいる。	・読書や語彙力をつける活動を引き続き充実させ、表現力を高める。 ・言語活動を充実させ、対話や協働的に学び合う活動を今後も取り入れる。 ・互いの考えや意見を整理、比較等ができるような手立てを工夫する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の課題や宿題など、与えられた課題に対してまじめに取り組むことのできる児童が多い。 ●自分の学習課題を把握し、計画的・効果的に家庭学習に取り組むことには課題がある。	・自分の学習状況や興味関心に応じた課題を見つけ、計画的に学習することができる。 ・ノートや端末等、学習内容に応じたツールを活用して、自主的に家庭学習に取り組むことができる。	・授業や家庭学習において端末を計画的に活用する機会を設定し、個別最適な学びを実現できるようにする。 ・「勉強がんばろうウィーク」の計画や振り返りを通して、家庭との連携を図りながら自主学習に取り組む、「できる」達成感を味わうことができるようにする。	・ICT 機器や端末を活用し、がんばったことを認め合う場を設定する。 ・端末を使って、個々の能力に応じた学習課題に自主的に取り組むことができるようにする。	・自ら学習内容を決定し、自分の学習課題に応じた自主学習に取り組める児童がいる。 ・課題が決められず、自主学習の内容について教師の助言が必要な児童もいる。 ・スマイルドリルを使って、個々の能力に応じた学習課題に取り組むことができた。	・授業で使ったプリントやテスト、ノート等を振り返り、家庭学習に活かすことができるようにする。 ・授業内容で理解が不十分な学習課題を児童自身が把握し、家庭学習の中でそれを補えるように支援する。

令和4年度 学力向上ロードマップ

